
美鈴の一日

ごくでヴある

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

美鈴の一日

【コード】

N2953W

【作者名】

ごくでぶある

【あらすじ】

美鈴のある一日の記録。

おそらく一般的な美鈴です。連載のような設定はとくにはありません。

(前書き)

たまには普通の東方小説を書こうというわけで・・・今回は普通の美鈴が主役の小説です。

機会があればまた書きたいと思います。

美鈴の朝は早い。

毎日朝の3時（人は深夜の3時という）から軽めのトレーニング（私に合った軽めのトレーニング）を行いそれから門番をはじめ。それからはいつもの朝ごはんを門の前で食べたなら門番、昼飯を門の前で食べたならまた門番そして夜で交代しみんなで晩飯を食べる。

ただその繰り返しである。

「そう、そんなわけで今日も私は暇なのでシエスタする・・・スピ
ーzzz」

「へえ、また寝て魔理沙達を見逃す気？」

門に背中を任せて寝ている美鈴を見て、紅魔館のメイド長をしている咲夜が青筋を立てながらナイフを構えている。

彼女の名は紅美鈴、紅魔館の門番をしている。

彼女の趣味はシエスタ、しかしただシエスタしてるわけではない。目を閉じる意識をなくして気配を感知したら起きて迎撃する練習をしているだけである・・・たぶん。

「貴女は門番としての自覚はあるの！門番なら外敵は排除しなさい
！」

美鈴はいつもどおり、額にナイフを投げつけられて刺さった後に怒られていた。

しかし、何も知らないものならただ怒っているだけに見えるだろうが知っているものから見れば二人はただじゃれあっているように見えるだろう・・・たぶん。

「わかりました」

美鈴はいつもと同じ笑顔をしながらそういった。

咲夜は懐中時計を開いて時間を見るとあわてた様子で屋敷の中に戻っていった。

そろそろ昼時なのでその準備に行ったのだろう。

美鈴は少しあくびをすると再び門に背中を置いた。

しかし、寝てはいない。

この昼時にはおいしいご飯のおいにつられて低級妖怪たちが寄り付く。

なので美鈴はその処理に追われるのである。

ちなみに扉をよじ登っていかうとしてもパチュリーの魔法の障壁が作動して入ることは出来ない。

つまり、唯一は入れるのは門だけとなる。

美鈴は、これをメイド長から門番になつてからずっと続けている。

正直パチュリーが門まで障壁を増やしたり、直接館の中にいる吸血鬼が消し飛ばしたりした方が早いのかもしれない。

だが、美鈴は紅魔館に住んでいる・・・家族の負担を減らすために拳を振るう。

彼女はそんなことをしているのはばれていないと思っているようだが・・・実際は館のみんなにばれている。

というか、戦いの音がやみ終わらなくて同じぐらいの時間帯にその音ばかりすれば誰でも気づく。

しかし、彼女達は美鈴にありがとうの一言や援護にも行かない。

一見見たら薄情とも取れるだろうがそれは違う・・・たぶん。

美鈴を信頼しているからこそ何も言わないし援護にも行かない。

「でやあああああ！！」

美鈴は今日も、拳を振るう。

戦いが終わった後の食事、それが一番つまります！！

私はいつもその満足感と満腹感に満ち溢れることが出来る昼飯が好きです。

しかし、それ以上に好きなのが・・・

「今日も通らせてもらうぜ！」

魔理沙は箒にまたがって飛びながらそのまま紅魔館の門を抜けていった。

美鈴はそれを見た後咲夜さんにまた怒られると少しため息をついた後に門にもたれかかった。

「やれやれ、今日も天気がいいですね」

美鈴はそうつぶやくと再び意識を手放した。

「・・・い・・・りん・・・美鈴！」

美鈴が目を覚ますと目の前には咲夜がいた。

美鈴はしばらくボケーっとしていたがすぐに

「さ、咲夜さん！すいません、寝てません！ただ、瞑想していただけですよ！」

と、誰にでも見抜けそうな嘘をついた。

咲夜はすぐのため息をつく。

「今日もあなたのおかげでお客様が来たわ」

と言つて美鈴にタオルを投げ渡した。

「そろそろ晩御飯もできるから戻ってきなさい」

「はい！」

美鈴は咲夜の後を追いかけていった。

美鈴の一日は、これで終わる。

だが、毎日が同じではない。

たまには不幸な日もある、だが美鈴にとっては全て幸せな日々。

美鈴は明日も、門の前で門番として立つ！

(後書き)

登場人物が美鈴と咲夜と魔理沙(しゃべったのは一行だけ)という
分かりやすさ・・・はいすみません！

門の前だけのことだとこのぐらいしかでてきませんでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2953w/>

美鈴の一日

2011年10月9日15時45分発行